

常滑

とこなめ

'84市勢要覧





発刊にあたって

私たちのまち常滑は、ことし市制施行30周年を迎えました。

思えば、長い歴史のなかで、多くの先人達
がその時々時代に生きながら、幾多の試練
に耐え、現在の常滑を築きあげてきたのです。

私たちは、市制30周年を契機に、先人達の
努力の足跡を思いおこすと同時に、長い歴史
によって培われてきた都市的蓄積や常滑独自の文化を、今一度再認識する必要があるのではないのでしょうか。そして、21世紀に向けて新しい都市づくりへの第1歩を力強く踏み出さなくてはならないと考えます。

いま、常滑市は「心のふれあう産業と文化の都市」づくりを目標に、たくさんの市民の参画を得て、第2次総合計画を策定しています。次代を担う子供達が、誇り、住み続けたいような常滑の都市を計画しなくてはなりません。それが、今の私たちに課せられた使命であると思います。

この要覧は、そうした願いをこめて編集したものであります。皆様方のご協力とご支援を心からお願い申し上げます。

昭和59年4月1日

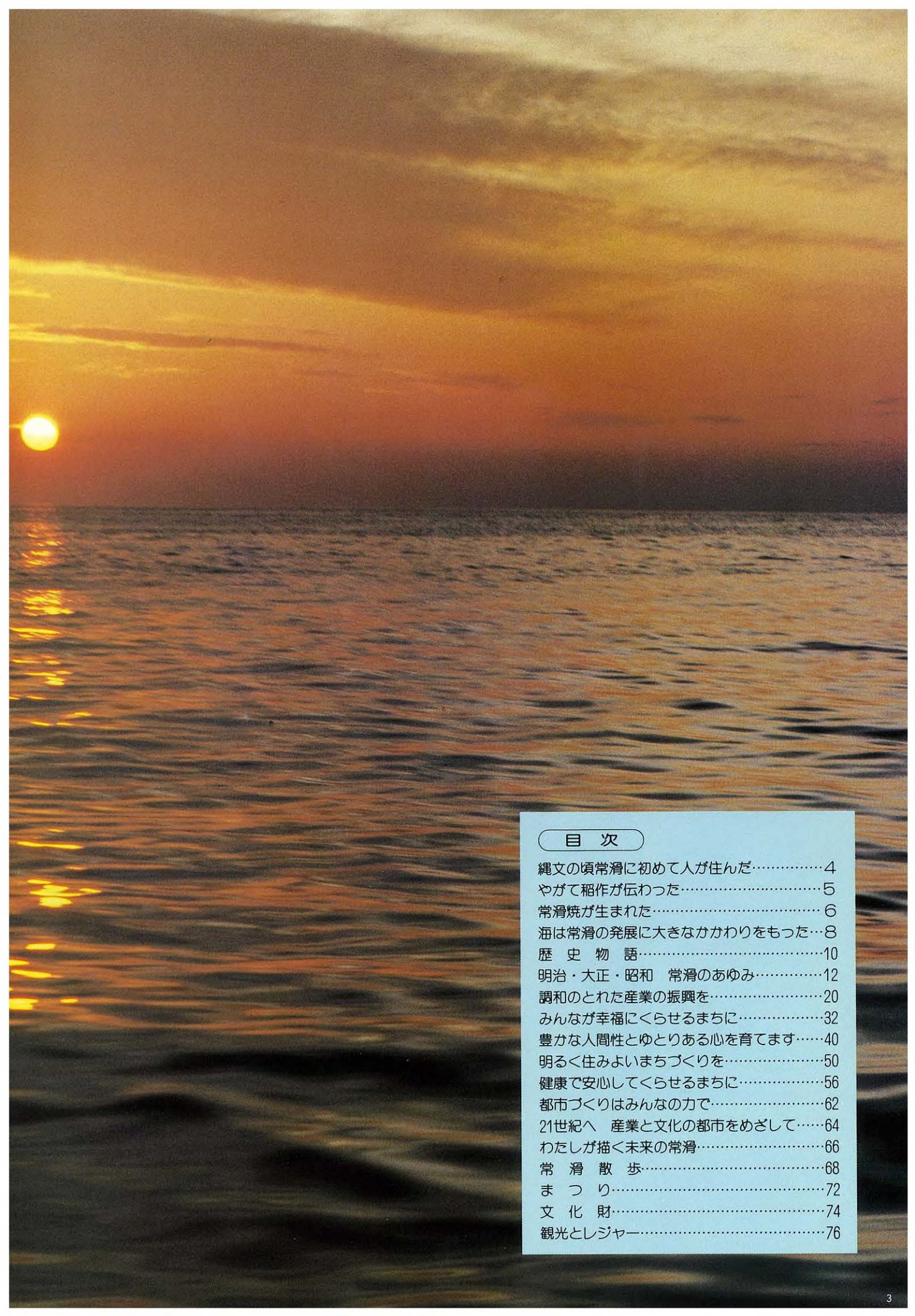
常滑市長

庭瀬 健太郎

その昔、この地は海の底にあったと
伝えられている。

地球が幾多の変動をくり返し、知多
半島ができあがった。やがて、人々が
住みつくようになり、生活の歴史が刻
みこまれていった。





目次

縄文の頃常滑に初めて人が住んだ	4
やがて稲作が伝わった	5
常滑焼が生まれた	6
海は常滑の発展に大きなかかわりをもった	8
歴史物語	10
明治・大正・昭和 常滑のあゆみ	12
調和のとれた産業の振興を	20
みんなが幸福にらせるまちに	32
豊かな人間性とゆとりある心を育てます	40
明るく住みよいまちづくりを	50
健康で安心してらせるまちに	56
都市づくりはみんなの力で	62
21世紀へ 産業と文化の都市をめざして	64
わたしが描く未来の常滑	66
常滑散歩	68
まつり	72
文化財	74
観光とレジャー	76

縄文のころ常滑に初めて人が住んだ。

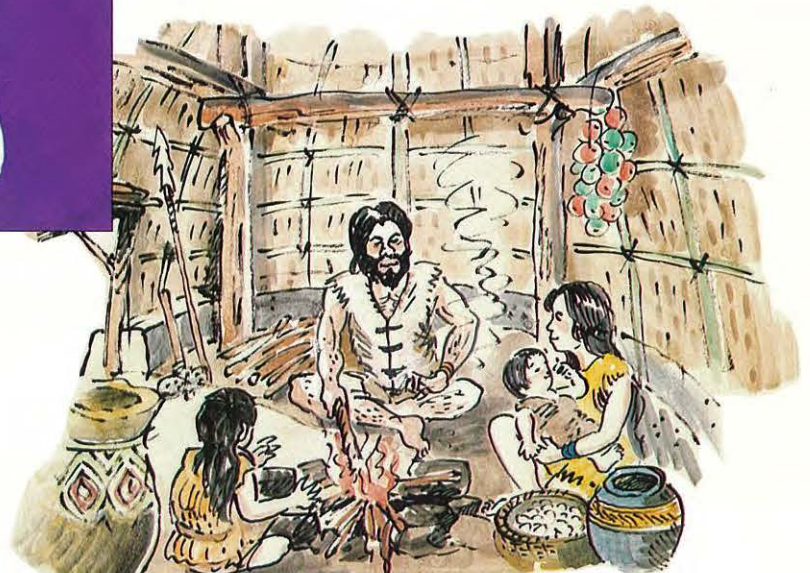
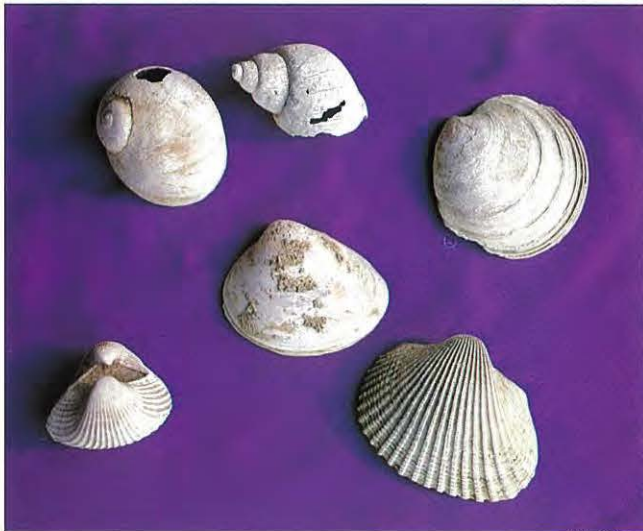
常滑に初めて人が住んだのはいつごろか……？

旧石器時代には、海面が現在より80～100メートル低かったといわれています。常滑沖の海底には、この時代の人が生活できた格好の地形が海図の上から指摘されています。

しかし、残念ながら、それを裏付ける遺跡は現在のところ発見されていません。

市内で発見された最も古い遺跡は、縄文時代の中～後期のものと思われる石瀬貝塚です。この貝塚からはアサリ、ハイガイなどの貝がらのほかに、タイ、フグ、カツオなどの魚の骨、シカ、イノシシなどの獣骨が検出されました。また、人骨や石器、土器も発見されています。

この時代の人々は、荒磯や遠浅の海岸近くに住居を構え、狩猟や漁撈をしながらの生活だったようです。



やがて稲作が伝わった。



紀元前 300 年ごろ、大陸から水田農耕が伝わってきました。人々の生活は採集から生産へと変わり、集団化して一定の場所に長く住むようになりました。

そして、この時代には銅鐸や銅剣といった青銅製品や、斧などの鉄製品も使われるようになりました。これが弥生文化です。弥生文化は稲と鉄器を軸として展開していったのです。

市内には、小規模なものですが、弥生時代の遺跡が所々あります。いずれも、弥生時代中～後期のものといわれ、谷川の上流や湿地帯で水田を開いていたようです。



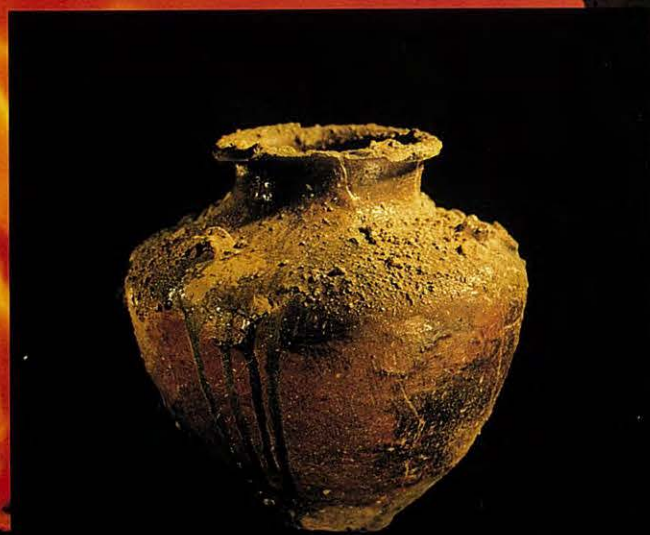
山之神遺跡出土の石剣(市指定文化財)



弥生時代によく見られるもので、鉄剣を模した粘板岩製の両刃の石剣です。

祭などに使われたものだろうといわれています。

常滑焼が生まれた。



自然釉三耳壺

常滑焼の発生は、平安時代末期といわれていますからおよそ900年の歴史をもっています。

瀬戸、信楽、越前、丹波、備前とならび、日本六大古窯のひとつとされ、中でも常滑は最も古く最大の規模といわれています。

知多半島には常滑を中心に数千基を数える窯跡があるといわれています。常滑の窯では大量の焼き物が焼かれ、陸路、海路を経て全国へ広がってきました。

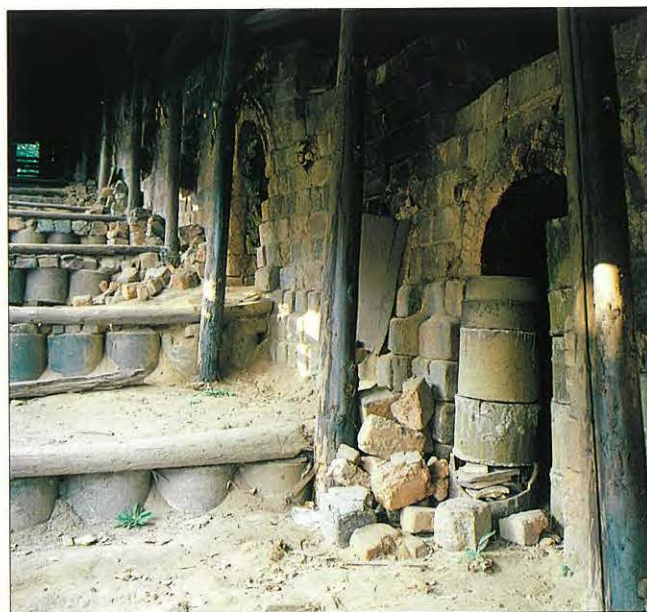
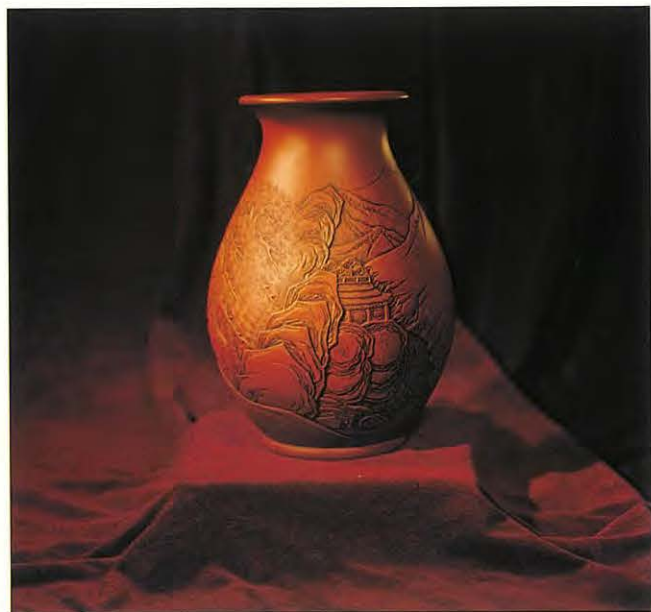


経筒と写経

経塚と常滑焼

初期の常滑焼は、宗教用品としても使われていました。全国各地の宗教遺跡（経塚など）から、常滑焼が出土しています。

経塚というのは写経を埋めた塚のことですが、常滑焼の壺は写経を納める容器として使われていました。



登り窯（重要有形民俗文化財）

登り窯を開発

常滑で登り窯が開発されたのは、江戸時代も後半の天保年間(1830～1843)であったと伝えられています。それまでの窯の主流は、大窯といわれるもので、焚き口から遠い所では温度が上がらず、素焼品が生じていました。

登り窯は、その欠点を改良し、一つの窯をいくつかの室に区切り、各室ごとに燃料が焚けるようにしました。そうすることによって、全製品を真焼品に焼きあげることができるようになりました。

しゅてい 朱泥焼の誕生

江戸時代の後期、茶器、花器などを中心とする小細工物の生産が行われるようになりました。この時期、名工といわれる人たちが輩出し、白泥焼、火色焼、それに現在でも常滑焼を代表する朱泥焼が誕生しました。

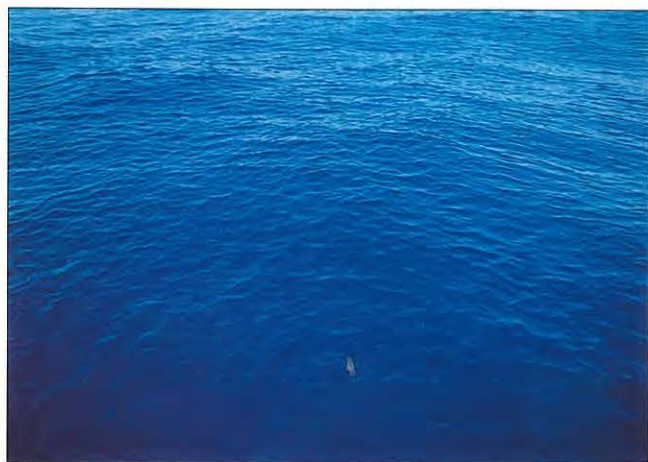
朱泥焼は初代杉江寿門の手によって完成されました。朱泥土というやや鉄分の多い土を水に溶かし、細かい粒子を集めてつくった土を使います。

海は常滑の発展に 大きなかわりをもった。

海は多くのものを与えてくれました…。

常滑は海との深いかかわりの中で発展してきたといえます。

海から食糧を得、海を渡って他国と交流し、多くの文化が海から伝わりました。



漁業

江戸時代の初期に書かれた「寛文村々覚書」によると、当時、知多半島には145艘の漁船があったと記されています。そのうち、この地域だけで半数以上の81艘を占めています。

知多郡の漁師たちは、近海だけでなく、遠くは江戸の海にまで漁に出かけていました。

この時代の漁法には「こつくり網」「地引き網」「あぐり網」「簀立て網」といったものがあり、特に「地引き網」は江戸時代に最も盛んに行われていたようです。



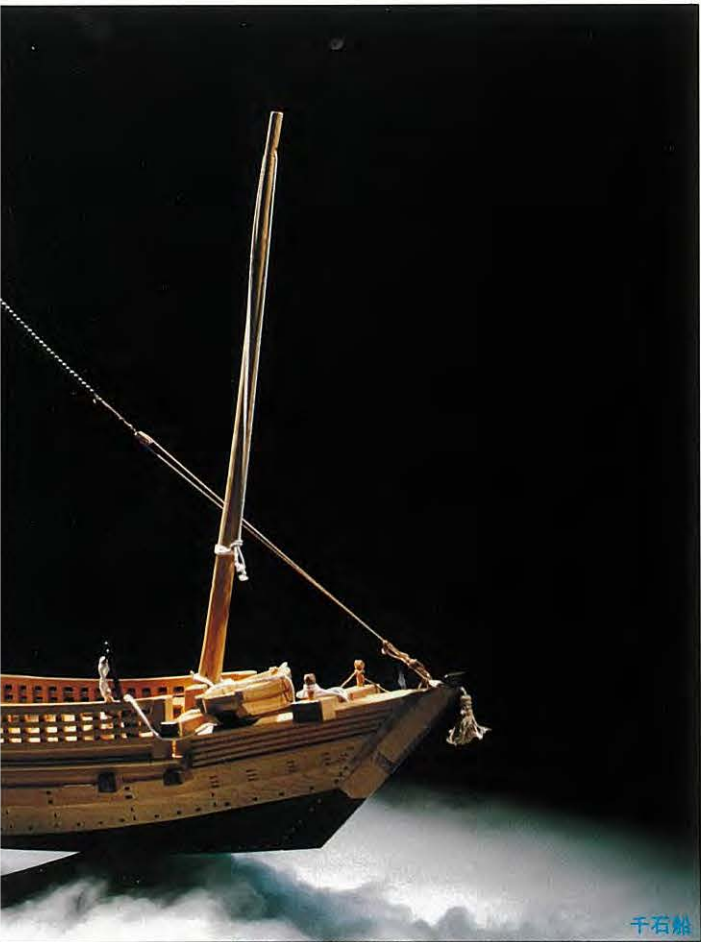
製塩

知多半島では6世紀ごろから土器製塩が行われていました。土器製塩は、干した海藻に海水をかけて濃い塩水をつくり、それを土器に入れて煮つめるという方法です。

奈良時代には土器製塩の最盛期を迎え、この地域でも製塩遺跡が発見されています。

やがて塩づくりは塩田で濃い塩水を得、塩釜で焚く方法へと改良され、生産量を高めていきます。

江戸時代の中期ごろまでは、藩の保護を受けながら盛んに塩づくりが行われていたようです。しかし、江戸時代の後期になると、瀬戸内海から良質の塩が入ってくるようになり、この地方の製塩はだんだん低調になっていきました。



千石船

廻 船

海上交通はめざましい発達をとげました。常滑焼が全国各地へ広がっていったのも、海上輸送という大きな手助けがあったからです。

この地方の海運業は、戦国期にはすでに相当発達していたものと考えられます。

江戸時代に入ると、尾張藩では次々と江戸御荷物船を建造します。しかし、手船ではとても足りなく、多数の廻船を雇ったとされています。

やがて、幕藩領主が都市で年貢米を換金し、それで藩財政を運営するようになると、廻船の活躍はますます目立ってくるようになります。寛文11年（1671）の尾張藩の調査によると、当時、知多郡の8カ村で144艘の廻船があり、そのうち66艘が大野村（現在の常滑市大野町）にあったと記されています。



すえ
常滑陶作り
(尾張名所図絵)



土器製塩



潮湯治(尾張名所図絵)

歴史物語

三代将軍家光の母「小督の方」 と大野城

小督は、近江の国小谷城主浅井長政の末娘として生まれました。母親は織田信長の妹お市の方です。

戦国武将の娘として生まれたことが小督の運命を大きく変えることになり、波乱に富んだ人生が始まるのです。

天正元年(1573)、小谷城は信長によって滅ぼされます。お市の方はやがて柴田勝家と再婚。しかし、勝家は賤ヶ岳の戦いで秀吉に破れ、越前北の庄で自害します。お市も夫勝家と運命を共にします。この際、お茶々(淀)、お初、小督の三姉妹は秀吉に預けられ、信長の弟織田長益のもとで育てられます。

小督が大野城主佐治与九郎一成のもとへ嫁いだのは、天正11~12年(1583~1584)ごろだったといわれています。与九郎の母は信長の妹お市の方ですから、与九郎と小督はいとこどうしということになります。

佐治家は伊勢湾を見おろす高台(現在の常滑市金山)に城を構えていました。大野衆とよばれる水軍を率い、海上輸送に携わりながら、伊勢湾に出没する海賊に対してもにらみをきかせていました。乱世といわれる戦国時代にとって、水軍の勢力は重要な意味をもっていたのです。

小督と与九郎の生活もわずかの時期でした。小督が嫁いでまもなく、大野城は落城し、佐治家の支配も与九郎の代で終わります。大野城落城については、想像や誤伝が多く明らかではありませんが「常滑史話索隠」によると、与九郎は長久手合戦のころは



織田信雄の指揮下にあつたとされています。名古屋南部星崎城の岡田一党の反乱に巻き込まれて落城したらしいとされています。

穩密裏に城を棄てた与九郎は、海上を伊勢へ渡り晩年は京都で静かな余生をおくります。

一方、与九郎と分かれた後の小督は、関白秀次の弟秀勝のもとへ嫁ぎます。ところが、秀勝は朝鮮の役で戦病死してしまいます。小督は、大閤秀吉が親がわりとなり、家康の嫡子、後の徳川二代将軍秀忠のもとへ三たび嫁いでいきます。秀吉が幼児秀頼の行く末を案じ、徳川家と姻戚関係になるために、小督を嫁がせたのであろうといわれています。

小督は、秀忠との間に、千姫、家光、後水尾天皇の女御として入内した東福院和子をもうけます。戦国の世をくぐりぬけてきた小督も、ようやく平穏な日々を送ることができるようになりました。

大野城址は、今は城山公園として市民の憩いの場となっています。散策道、遊園地、展望台などがあり、特に展望台から望む伊勢湾の景観はすばらしいものです。



宮山村古城の図

常滑城と水野氏

水野一族は、室町時代の前半のころから知多半島の東海岸を本拠として発展した土豪です。

水野氏は常滑にも城を築き、知多半島西海岸にも勢力を広めていきました。常滑の水野家は三代続き、城主は代々「堅物」の名を名乗りました。

三代城主の水野堅物守隆は、茶の湯や連歌をたしなみ、茶人の津田宗及や千利休とも親交がありました。また、常滑焼の振興にも力をつくしたといわれています。

松平家と手を握っていた水野家ですが、急速に織田方に傾き、守隆は信長の有力武将として働いていたようです。しかし、本能寺の変では明智方につき、世の悪評を受けた守隆は、京都の嵯峨野に隠棲することになります。

常滑城は、新しく尾張の領主となった織田信雄の支配下に入れられたことになっていますが、現実には信雄の重臣である星崎城の岡田長門守重孝の管掌を受けていたようです。

だが、天正12年(1584)、長門守は秀吉と通謀しているという嫌疑をかけられ、信雄によって暗殺されてしまいます。これに憤激した岡田一党は、一斉に信雄に対して反乱を起こします。常滑城も星崎に呼応して兵をあげますが、刈谷・緒川の水野忠重、勝成親子によって鎮圧されます。

その後、常滑城は水野宗兵衛忠重、高木九助などの手に渡りますが、やがて破却されたものとされています。



不識壺

水野堅物守隆は、津田宗及、千利休と親しい間柄だったようです。

堅物が、写真のような壺を利休に贈ったところ、利休はこの壺に「不識^{ふしき}」と銘を付けました。以来、このような形の壺を不識壺と呼ぶようになりました。

年号(西歴)	おもなできごと
永禄3年(1560)	桶狭間の戦：織田信長、今川義元を倒す。
永禄5年(1562)	徳川家康、織田信長と同盟。
永禄11年(1568)	信長、足利義昭を奉じて京都に入る。
元亀1年(1570)	姉川の戦：信長、浅井長政・朝倉義景を破る。
元亀2年(1571)	信長、比叡山を焼討。
元亀3年(1572)	三方が原の戦：武田信玄、信長・家康を破る。
天正1年(1573)	信長、將軍義昭を追う。 (室町幕府滅亡) 信長、浅井長政・朝倉義景を滅す。 ※近江の小谷城(浅井長政)落城後、お市は3姉妹を連れて引き上げる。
天正2年(1574)	信長、禁窯令を出す。
天正3年(1575)	三河長篠の戦：信長・家康、武田勝頼を討つ。
天正4年(1576)	信長、近江の安土城に入る。
天正10年(1582)	信長・家康、武田勝頼を破る。 本能寺の変：明智光秀、信長(49)を殺す。 山崎の戦：秀吉、光秀を討つ。 ※常滑城主水野堅物守隆は、明智方についたと思われる。 ※お市は柴田勝家と再婚する。 (天正10~11年ごろ)
天正11年(1583)	賤ヶ岳の戦：秀吉、織田信長の3男信孝や柴田勝家を破る。 ※織田家の後継者決定に不満をもつ信孝や、秀吉の強大化をにくむ柴田勝家と対立した秀吉は近江の賤ヶ岳でこれを破る。 勝家は越前北の庄で自害、お市も後を追って自害する。 茶々、初、小督の3姉妹は、秀吉にあずけられる。 ※小督、佐治与九郎のもとへ嫁ぐ(天正11~12年ごろ)。大野城は天正12年に落城したとされているので、小督と与九郎の生活はわずかの間であったと思われる。
天正12年(1584)	小牧・長久手の戦：秀吉、家康と戦い後に和す。 ※常滑城主岡田長門守が主君織田信雄の手によって暗殺される。
天正14年(1586)	秀吉、太政大臣となり、豊臣の姓を受ける。 ※小督、関白秀次の弟秀勝のもとへ嫁ぐ。しかし、秀勝は文禄元年(1592)、朝鮮で戦病死。
天正18年(1590)	家康、江戸城に入る。
文禄1年(1592)	文禄の役：秀吉、朝鮮に出兵を開始。
文禄3年(1594)	伏見城成り、秀吉移る。
文禄4年(1595)	小督、徳川秀忠のもとへ嫁ぐ。

明治・大正・昭和 常滑のあゆみ

▼明治

●市場通り



●素焼窯の窯入れ



●陶管造り



●塩田



●常滑陶器学校

おもなできごと

明治4年
額田県に属する
明治5年
愛知県に属する
明治6年3月16日
大野郵便役所が設置される
明治9年
巡査屯所が大野村におかれる
明治10年
半田警察署常滑分署がおかれる

明治21年
盛田命祺が「私立鈴溪義塾」を創立
明治22年10月1日
大野村が町制施行
明治23年12月17日
常滑村が町制施行
明治26年3月16日
電報業務が開始される
明治29年
常滑工業補習学校創設
(明治33年4月、常滑陶器学校になる)

明治40年4月11日
電話通信事務が開始される
明治41年
常滑町に巡査部長派出所が設けられる
明治44年2月
大野・常滑・西浦地区に電灯がつく
明治44年12月10日
枳豆志村が西浦町になる
明治45年2月18日
伝馬町～大野間に電車開通

▼大正

●常滑地区春まつり



●名鉄常滑駅付近



●常滑港



●市木橋



●常滑小学校講堂

大正2年3月29日

大野～常滑間に電車開通

大正7年7月

定期バスが半田～常滑間を走る

大正14年

常滑陶器学校が県立になる

（昭和10年に、愛知県常滑工業学校と改称）

▼昭和(市制施行前)



●ロクロで火鉢造り



●北条付近



●常滑駅から出征兵士を送る



●常滑陶器館

昭和5年

常滑陶器館が建設される

昭和7年

常滑港の大修築計画が立てられる
(昭和8年度から昭和13年度まで工事が
行われた)

昭和11年

常滑実科高等女学校が開校
(昭和17年愛知県常滑高等女学校と改称)

昭和19年12月7日

東南海地震が発生

昭和23年

常滑工業学校と常滑高等女学校が統合さ
れ、県立常滑高等学校となる

昭和23年10月1日

愛知用水開発期成会が結成される

昭和23年

学校給食が始まる(西浦南小学校で)

昭和25年7月10日

常滑～名古屋間に直通電車が開通

昭和26年10月17日

鬼崎村が町制施行

昭和27年7月1日

小鈴谷村が町制施行

昭和28年7月10日

常滑競艇初開催

昭和28年9月25日

13号台風来襲

▼昭和(市制施行前)

●白山山頂から



●市場通り



●常滑港



●常滑町役場

市制施行への動き

昭和28年10月「町村合併促進法」が施行されました。昭和29年3月3日、常滑・鬼崎・西浦・大野の4町と三和村で、4町1村合併促進協議会の第1回目の会合が開かれました。次いで3月6日には、関係町村議会が一斉に招集され、それぞれ全員一致で合併を可決しました。

昭和29年4月1日、愛知県下17番目の新生都市として常滑市が誕生しました。

市制施行時の人口 42,979人

市制施行時の面積 41.67km²

常滑市は、市制施行後も隣接の町村に対して合併促進の呼びかけを続けました。昭和32年3月31日、小鈴谷町のうち、大谷・小鈴谷・広目・坂井地区が常滑市に編入され、現在の市域ができました。

小鈴谷町の編入合併で、人口は49,800人に、面積は 48.98km²となりました。

市政のあゆみ

- 昭和29年4月1日、市制施行

11月1日に全市をあげて祝賀会が催される



- 昭和32年3月31日、小鈴谷町の一部を合併



- 昭和34年4月28日、市民病院が完成



- 昭和34年9月26日、伊勢湾台風来襲

昭和29年4月1日
常滑市制施行
昭和29年4月25日
初代市長に伊奈長三郎氏就任
昭和30年3月27日
二代市長に滝田次郎氏就任
昭和30年6月1日
常滑市章を制定

昭和32年3月31日
小鈴谷町の一部を合併
昭和33年9月1日
学校の統合が始まり、最初に三和中学校
と大野中学校が統合され、青海中学校が
設立された
昭和34年3月27日
三代市長に久田慶三氏就任
昭和34年4月28日
市民病院が完成

- 昭和34年11月10日、青海中学校鉄筋コンクリート造り校舎が完成



- 昭和36年6月25日、愛知用水が通水



- 昭和36年10月10日、陶芸研究所が完成



- 昭和39年10月4日、東京オリンピック聖火リレーに市民も参加

- 昭和37年12月、中郷・鯉江新開・保示・樽水地区などの公有水面埋め立て工事が完了

昭和34年9月26日

伊勢湾台風来襲

昭和36年6月25日

愛知用水が通水

昭和36年10月10日

陶芸研究所が完成

昭和37年12月10日

中郷・鯉江新開公有水面埋立工事が完了

昭和37年12月20日

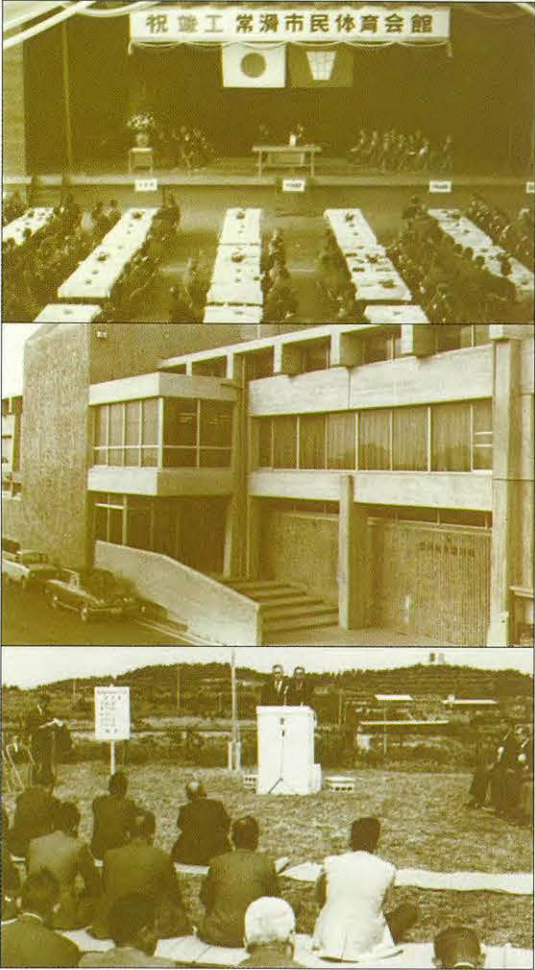
保示・樽水公有水面埋立工事が完了

昭和39年10月4日

東京オリンピック聖火リレーに市民も参加

市政のあゆみ

●昭和41年10月15日、市民体育会館が完成



●昭和45年10月1日、新市立図書館が完成
●昭和48年5月7日、総/パ事業に着手

●昭和44年4月16日、新市庁舎が完成



●昭和47年7月8日、国際陶芸展で、常滑焼が名誉最高大賞を受賞。フランスで開かれる受賞式に向かう代表者たち

昭和41年10月15日 市民体育会館が完成	昭和46年3月31日 市立養護老人ホームが完成	昭和48年5月7日 農村基盤総合整備/パイロット事業に着工
昭和43年11月1日 県立窯業技術センターが完成	昭和47年6月20日 名誉市民第1号に伊奈長三郎氏	
昭和44年4月16日 新市庁舎が完成	昭和47年7月8日 国際陶芸展で常滑焼が名誉最高大賞を受賞(第3回ビエンナーレ展)	
昭和45年10月1日 新市立図書館が完成	昭和48年4月2日 常滑警察署が発足	
昭和45年10月14日 市陶磁器会館移転新築工事が完成	昭和48年4月2日 常滑商工会議所が発足	

●昭和49年7月25日、集中豪雨が市内を襲う(小倉地区)



●昭和50年4月5日、県立常滑北高校が開校



●昭和50年8月8日、交通安全子ども自転車全国大会で、市内の小学校が2年連続優勝



●昭和58年11月1日、市民文化会館・中央公民館がオープン

昭和49年3月31日

市内の6農協が合併

昭和49年4月5日

市の木にクロマツを選定

昭和49年7月25日

集中豪雨が市内を襲う

昭和50年4月5日

県立常滑北高校が開校

昭和50年8月8日

交通安全子ども自転車全国大会で市内の小学校が2年連続優勝。(49年は西浦北小が優勝。50年は常滑小が優勝、2位に西浦北小)

昭和51年9月12日

17号台風による集中豪雨が市内を襲う

昭和54年4月30日

四代市長に庭瀬健太郎氏就任

昭和54年6月13日

名誉市民第2号に久田慶三氏

昭和56年2月7日

市の花にサザンカを選定

昭和57年3月27日

南陵市民センターが完成

(公民館、武道場、テニスコートなど)

昭和58年3月24日

青海公民館が完成

昭和58年8月20日

常滑競艇場施設改善事業第2期工事が完了

昭和58年11月1日

市民文化会館・中央公民館がオープン

調和のとれた産業の振興を





農 業

市街化調整区域全域を対象に、農村総合整備事業(県営)を進めています。農業の機械化、近代化をはかるとともに、農村環境の整備に力を入れています。





● 菊の電照栽培



● 酪農



● 農村総合整備事業で農地の整備

漁 業

伊勢湾は魚の宝庫といわれています。車エビ、ワタリガニをはじめ、カレイ、キス、クロダイ、セイゴなど多種類の魚が獲れます。

また、海況の有利性からノリ養殖が盛んに行われ、品質の高いノリを全国に出荷しています。





●ノリ養殖は厳しい寒さの中で行われる



●底引き網漁船



●活気あふれる魚市場



●魚 港

工業

窯業、醸造業、繊維工業など古くから栄えてきた工業に加え、近年は鉄工業、機械工業などの発展もめざましいものがあります。

代表産業の窯業は、近代化、機械化された工場で大量生産されるものと、伝統的な技法で造られる手造りのものがあります。



●製品のチェックには厳しい目が注がれる



織布工場



醸造業



● 鉄工業



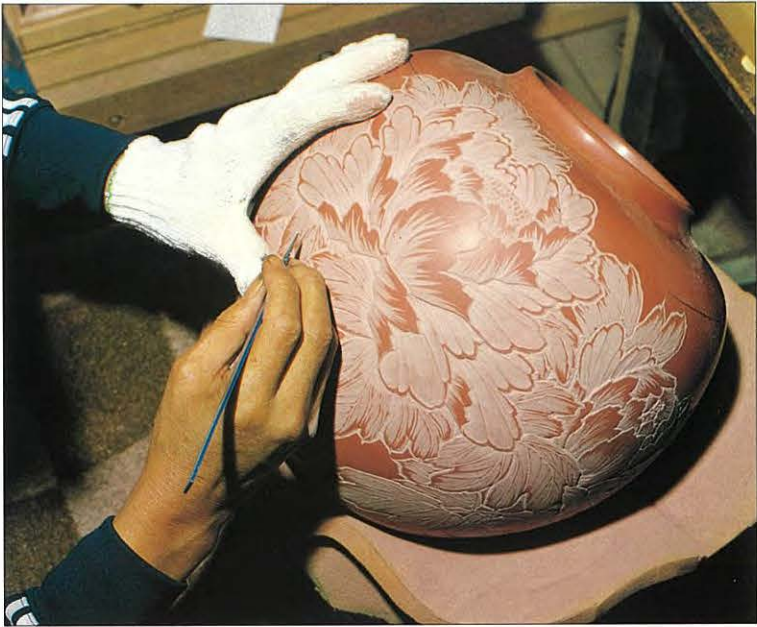
● 陶管工場

伝統技術

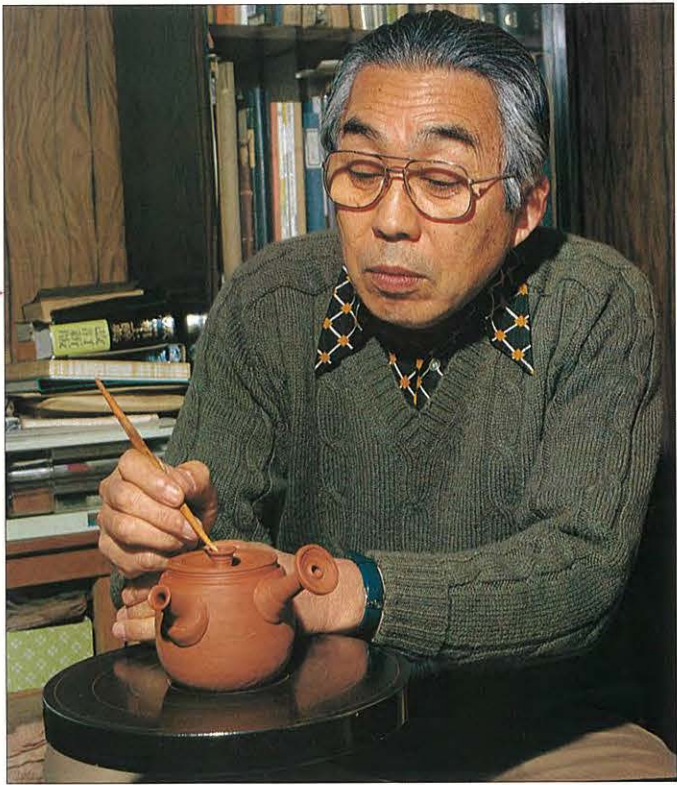


●ロクロによる成形

●押し型で造られる盆栽鉢



●彫刻



●ヒモ造りで成形された急須

商 業

常滑焼を全国に販売する卸売業と、地域に密着した一般小売業があります。

卸売業者は、見本市や常滑焼まつりを催すなど、常滑焼の一層の普及に努めています。

また、一般小売業者は魅力ある近代的な商店づくりに力をそいでいます。

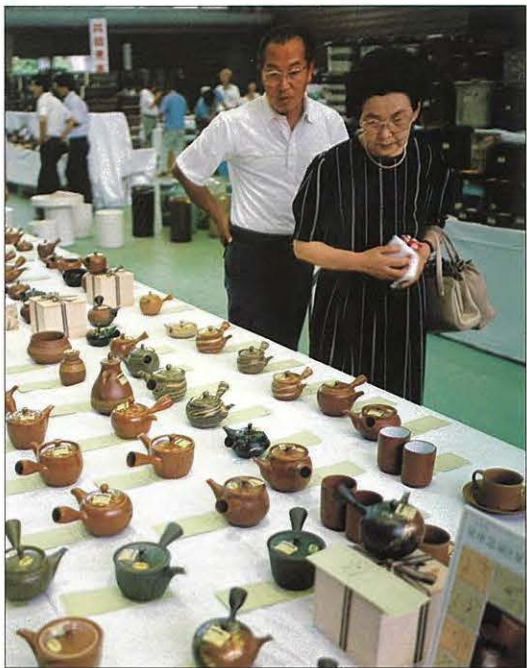


●夏の風物詩となった常滑焼まつり



食料品店

●見本市には全国のバイヤーが訪れる



●洋品店

みんなが幸福にくらせるまちに





児童福祉

子供たちが明るくすこやかに育つよう、施設の整備や児童活動の充実に力を入れています。

保育園では働く母親のために、長時間保育や乳児保育を実施しています。また、小学校区ごとに児童館を建設し、子供たちばかりでなく母親クラブの活動にも利用しています。





老人福祉

老人が生きがいのある生活がおくれるよう、地区ごとに老人憩の家を建設し、民踊、盆栽、アートフラワーなどの趣味の教室をはじめ、お年寄りの社交場として利用しています。

また、寝たきり老人のために移動入浴サービスも実施しています。



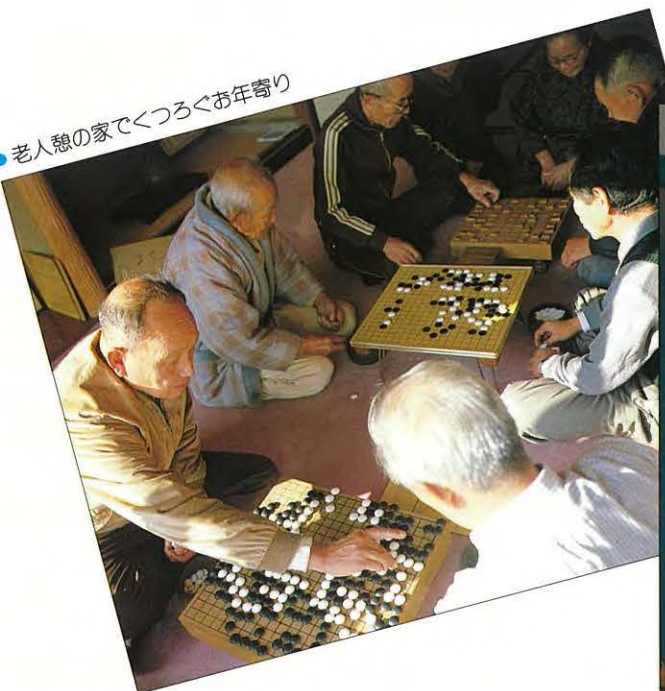
保育園でワラぞうり造りを指導するお年寄り



● 老人憩の家



● ゲートボールは大変な人気



● 芸能教室発表会



障害者福祉

体の不自由な方たちのためには、各種手当や制度の充実をはかっています。また、自立をめざす方々のために小規模授産所を2ヵ所設け、職業訓練や生活指導を行っています。



●障害者とボランティアの合同キャンプ



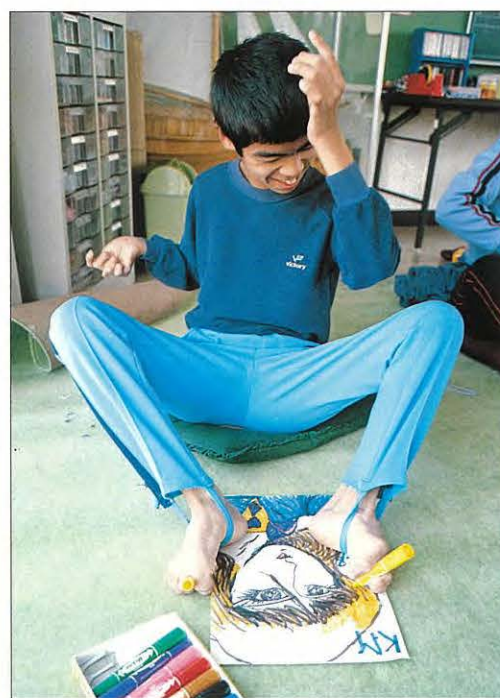
●精神薄弱児通園施設



●授産所では作業や訓練が熱心に行われている

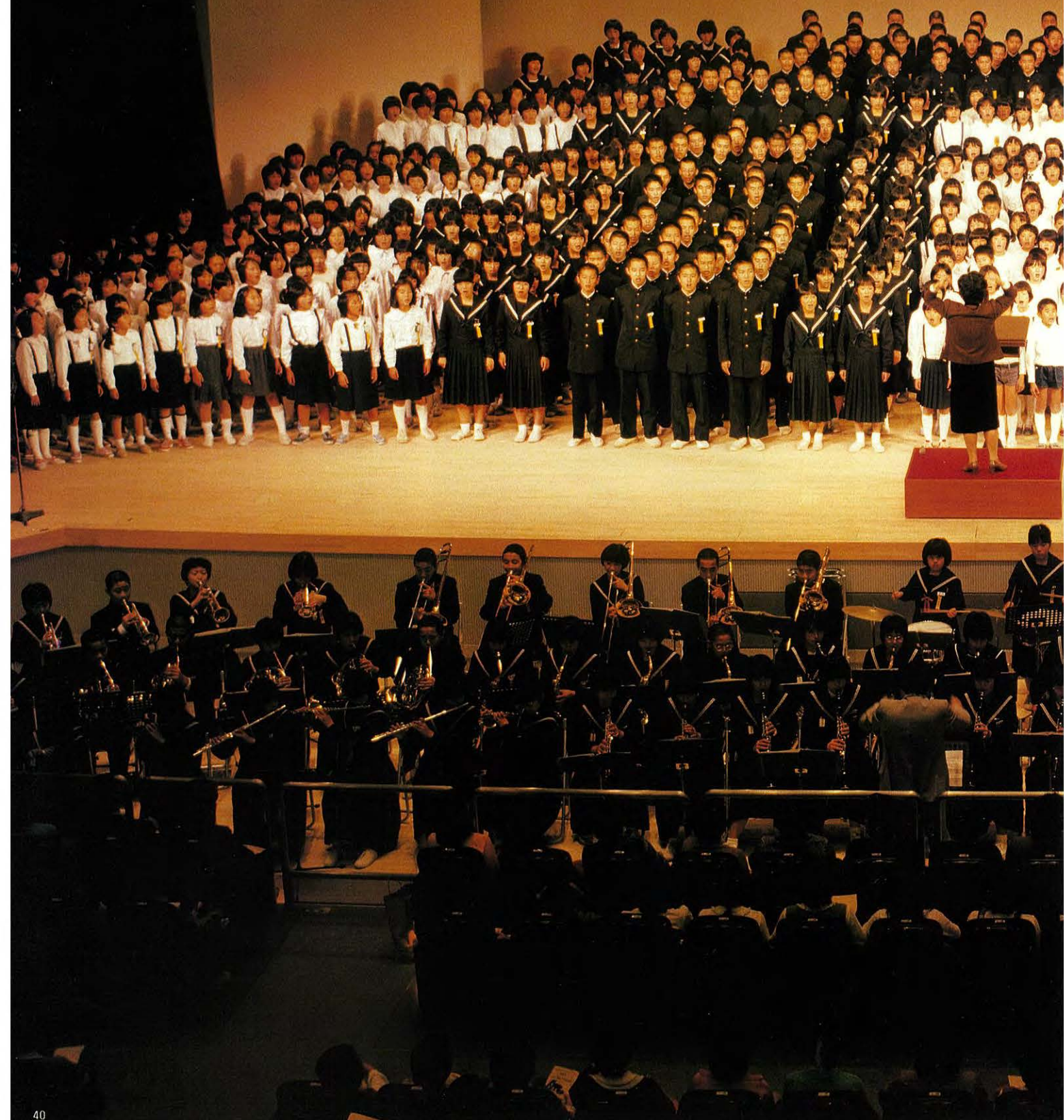


●声の広報は目の不自由な方たちへ



●地域の人と一緒に運動会

豊かな人間性と
ゆとりある心を育てます





学校教育

次代をになう子供たちが、のびのびと学習できるよう、教育施設や設備の充実をはかっています。

また、教育の基本を「知・徳・体の調和のとれた人づくり」とし、創造性豊かな明るくたくましい人間形成に努めています。





社会教育

生涯教育の重要性がさげられる中、社会教育への関心はますます高くなっています。

市民の社会教育活動の高まりをいっそう助長するために、公民館などの施設の整備に力を入れています。

また、各種講座、講演会、学級などの学習機会を数多く設け、市民の幅広い学習要求に応えています。



● 人気が高い料理教室



●手芸教室



●定期的に開かれる公民館ふれあいコンサート



●サークル活動ではいつも熱い意見が

●絶えず学習の機会が



文 化

文化活動の拠点となる市民文化会館では、音楽・演劇をはじめとして幅広い文化活動が展開されています。

また、市立図書館は市民の書架として、子供から老人まで多くの
人々に親しまれています。

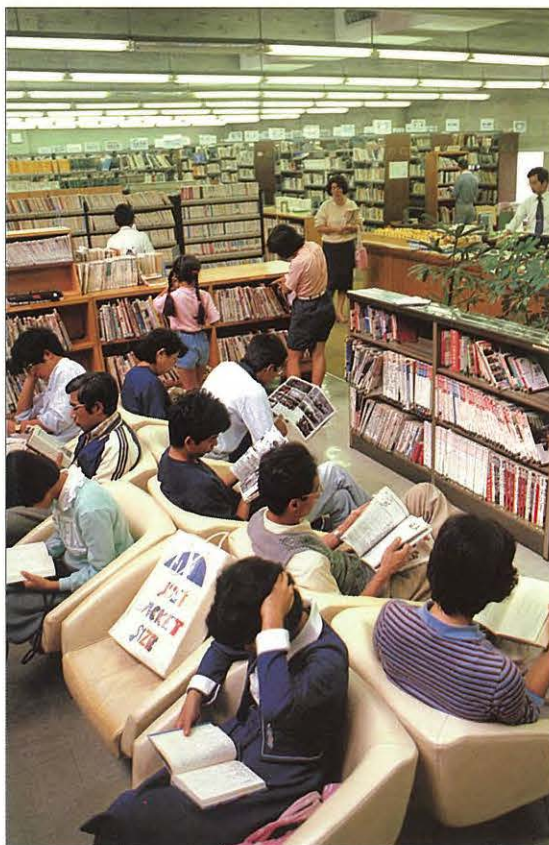




●市民文化会館・中央公民館



●コンサート



●市民の書架市立図書館



●市民文化会館展示室

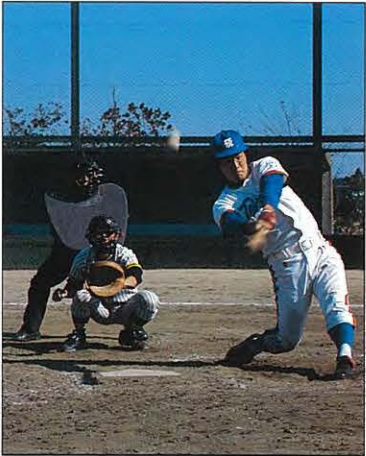
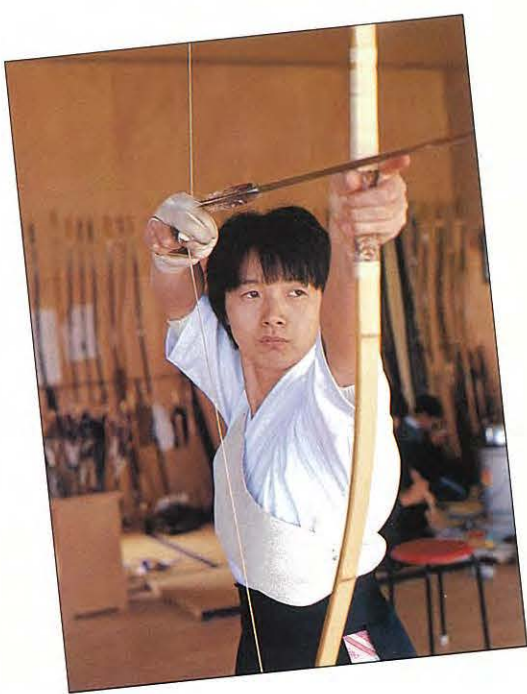
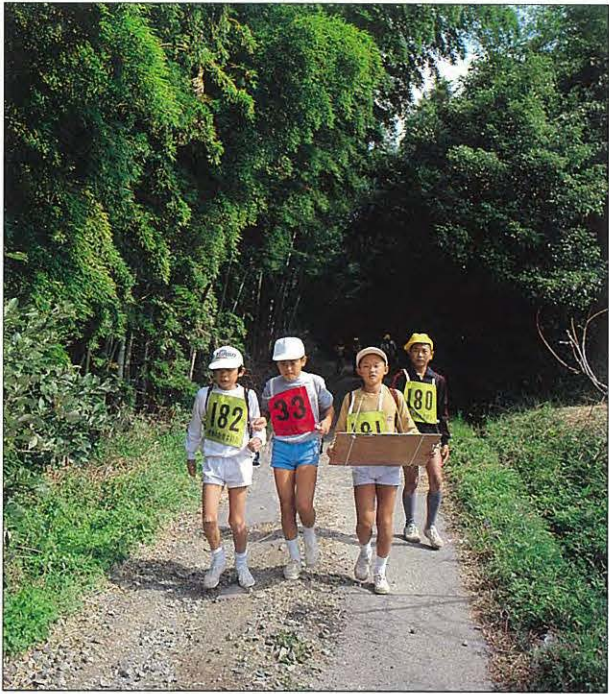
スポーツ

競技スポーツからレクリエーションスポーツまで、市民のスポーツ熱は年々高まっています。

市民体育館、運動公園、地区の運動広場など、多くの利用者でにぎわっています。

市では、施設の充実とともに、リーダーの養成やスポーツ教室の開催にも力を入れています。





明るく住みよいまちづくりを





都市整備

都市整備は快適な市民生活をおくるためにも、健全な産業の発達をはかるうえでも重要な課題です。

土地の有効利用を考えながら、市街地の整備・住宅用地の生み出しなどに取り組んでいます。

また、道路、河川、下水、公園などの公共施設の整備も着々と進んでいます。





●水路改修工事



●下水路

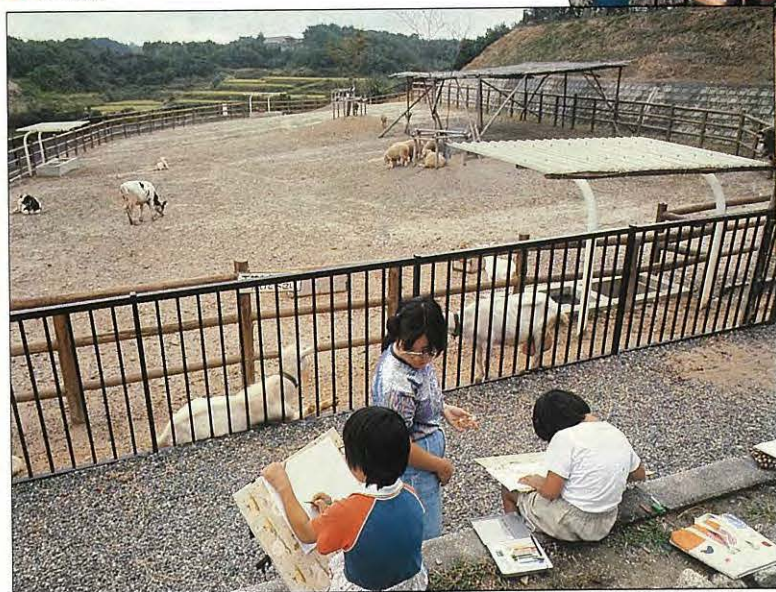


●区画整理事業で宅地を生み出す

公園



● ミニ牧場



● 公園は市民の憩の場



● 遊園地



● テニスコート

健康で安心してらせるために





保健・衛生

市民みんなが健康で明るい生活をおくれるよう、保健センターでは住民健診、乳幼児健診をはじめ、きめ細かな保健サービスを実施しています。一方、市民病院は最新鋭の医療機器を備え、市民の健康管理に努めています。

また、公害防止対策の充実、ごみ・し尿の計画的な処理など環境衛生にも力を入れています。



●市民病院には最新鋭の検査機器が備えられている



● 育児相談



● 幼児健康診断



● 水質検査



● ゴミゼロ運動は市民一丸となって

安全対策

安心して住める都市づくりをめざして、安全対策には万全を期しています。

消防団、地区防災班、自衛消防隊などの市民組織と協力して、毎年大がかりな防災訓練を実施しています。

また、地区や職場、学校、幼稚園、保育園などを対象に、きめ細かな防火訓練も実施しています。



一方、大きな社会問題となっている交通事故については、幼児から老人まで徹底した交通安全教育を実施しています。さらに、行政と市民が一体となり、街頭交通指導を実施するなど、市民総ぐるみの交通安全運動に取り組んでいます。



●消防団



●防災訓練



●交通安全センター



●市幹部会議

まち 都市づ みんな



●施設見学会



●予算を中心にした市政説明会、



くりは、 の力で



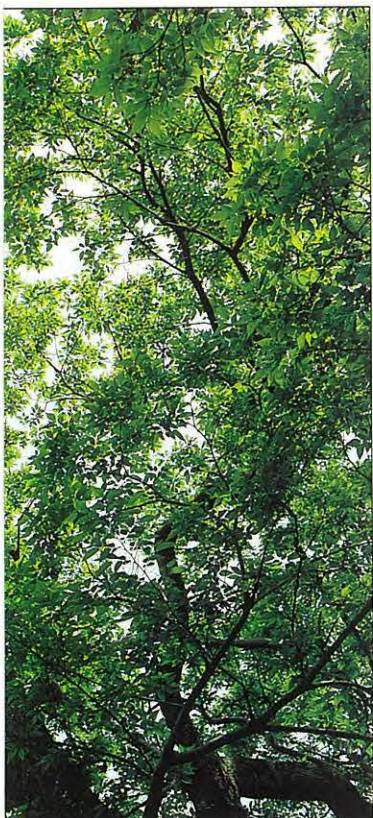
●市議会



●投書箱



●市政モニター会議



●市役所

21世紀へ 産業と文化 都市をめざ



の て





佐野貴彦くん（3年生）

「ぼくは乗り物が大好きです。将来は、常滑から直通で北海道や沖縄へ行けるようになったらいいなと思います。

大きくなったらお父さんと同じように、焼き物の仕事をやりたいんですが、明るくて近代的な焼き物工場がどんどんできるといいですね」

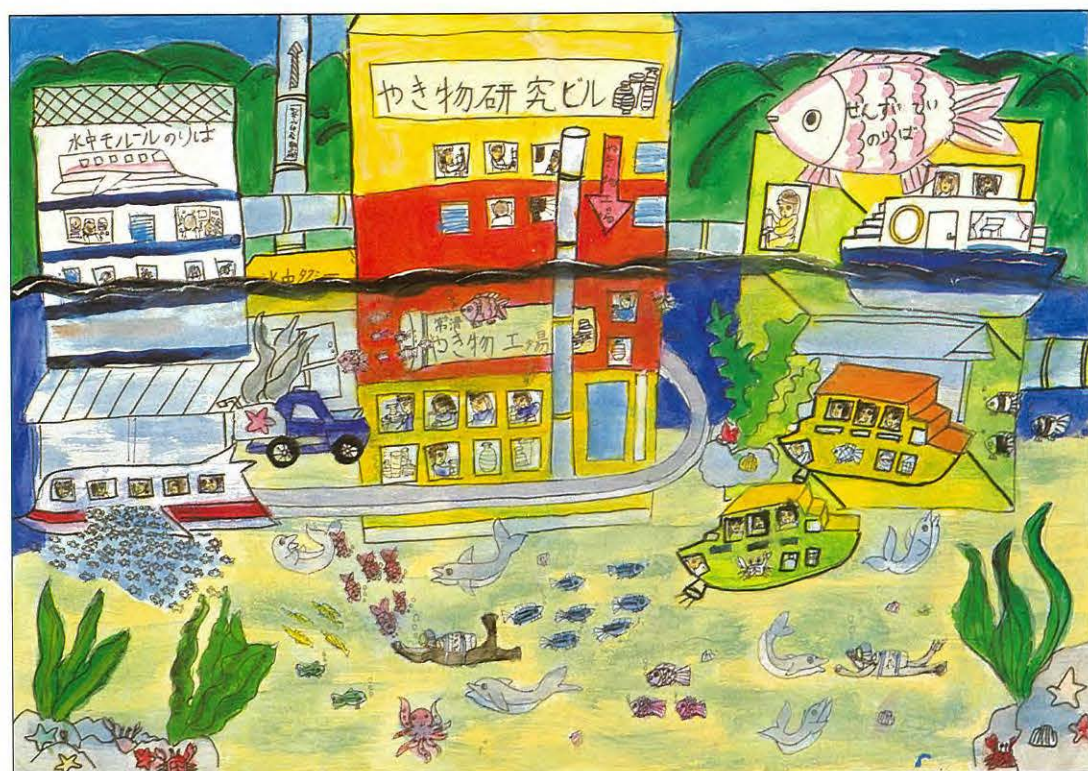


わたしが描く——未来

馬場ゆう子さん（3年生）

「海の中で生活できるようになったらいいなと思います。そんなことを考えていたら、自然にこんな絵が画けたんです。

海の中を自由に走り、好きな所へ行けるようになるといいですね」





細江直樹くん（6年生）

「将来は海の活用を考えていく必要があると思います。お父さんと海の活用について話していたら、こんな絵が画けました。」

それから、いろんなものが発達するのはいいんですが、公園や遊園地などもなくなってしまうようにしてほしいです」

の常滑



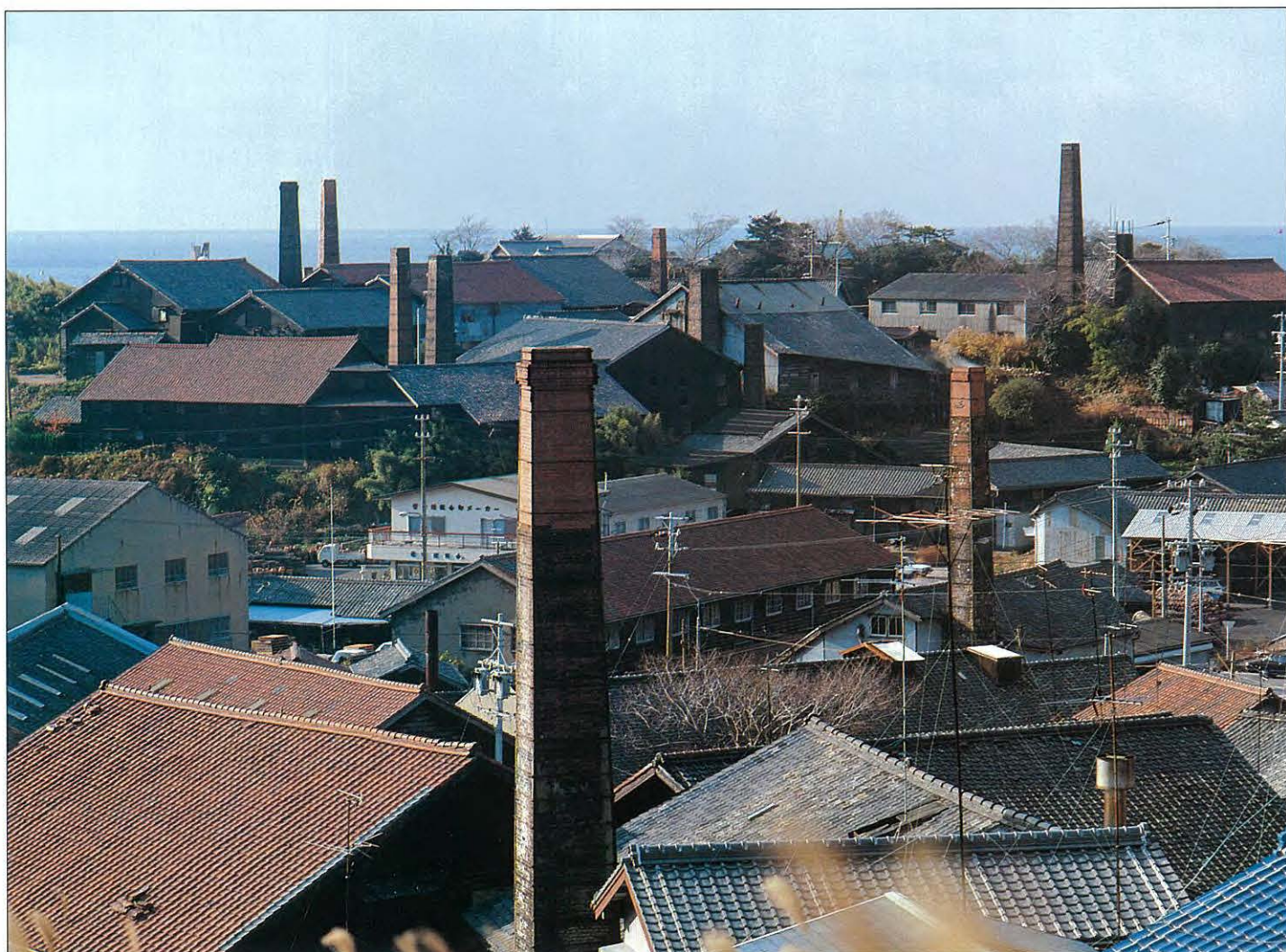
藤井大介くん（6年生）

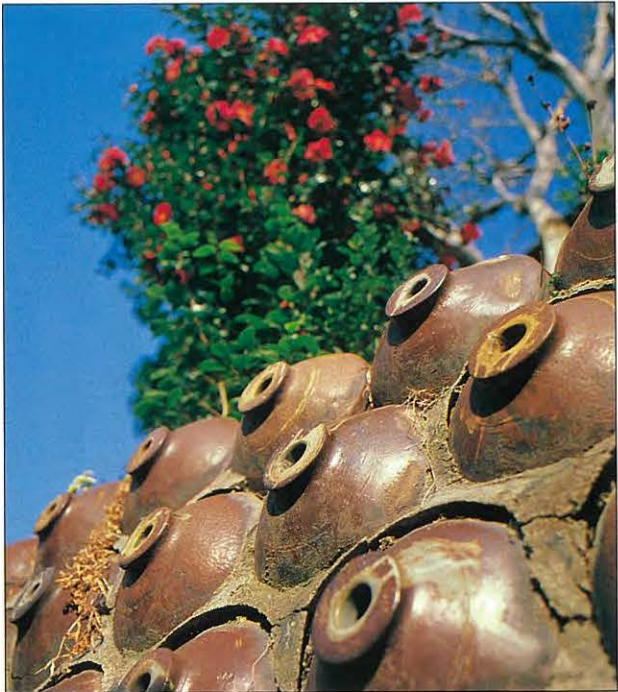
「交通機関がもっともつとつと発達したらいいと思います。ビルからビルをつなぐ道路や、市内を一周するモノレールなんかができるといいですね。」

それから、常滑は焼き物のまちですから、焼き物産業がもっと伸びてほしいと思います」

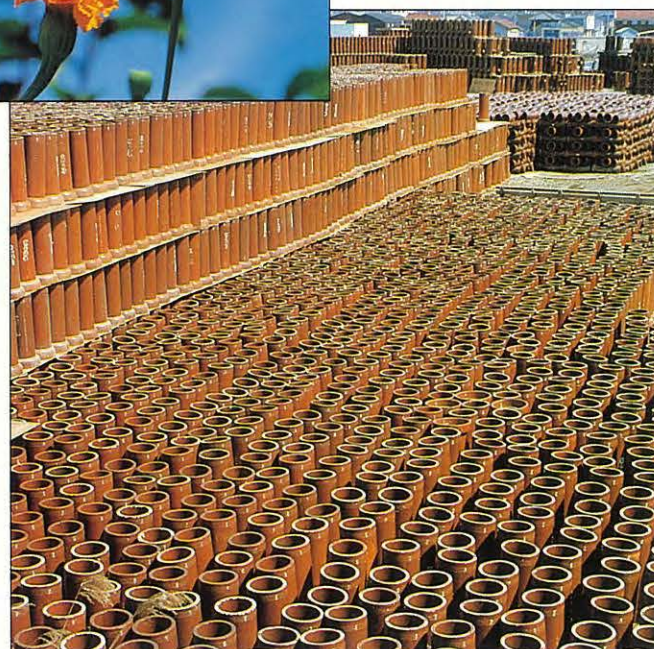
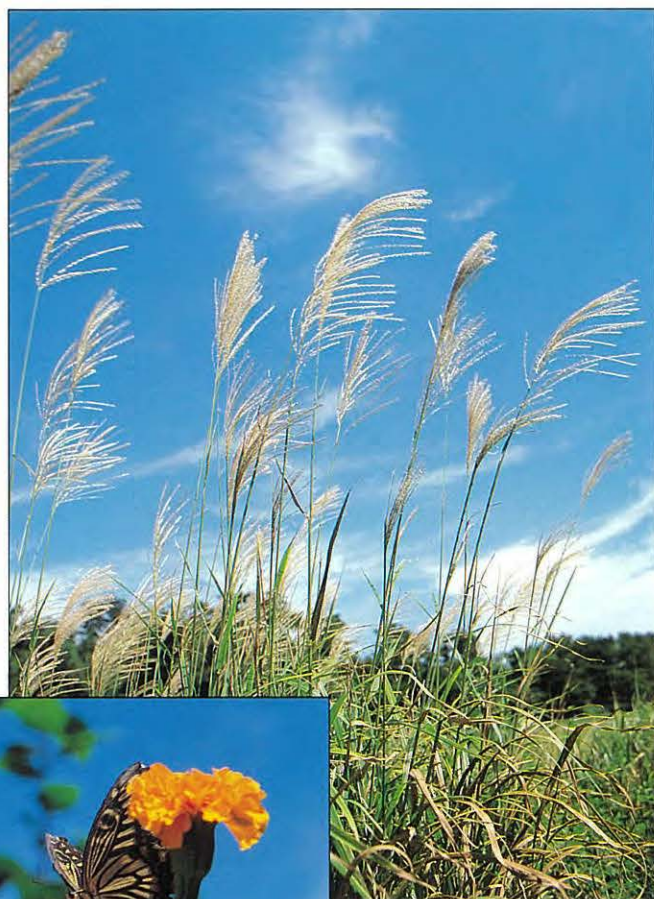
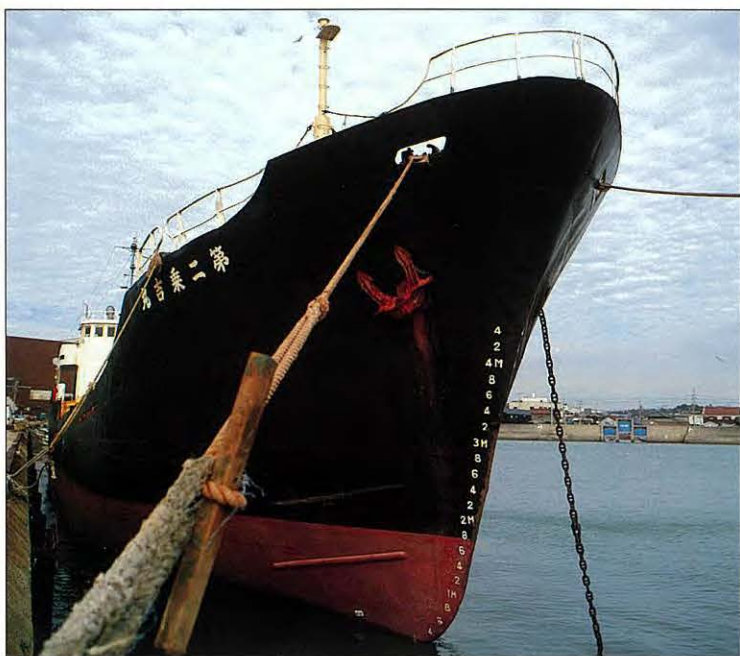


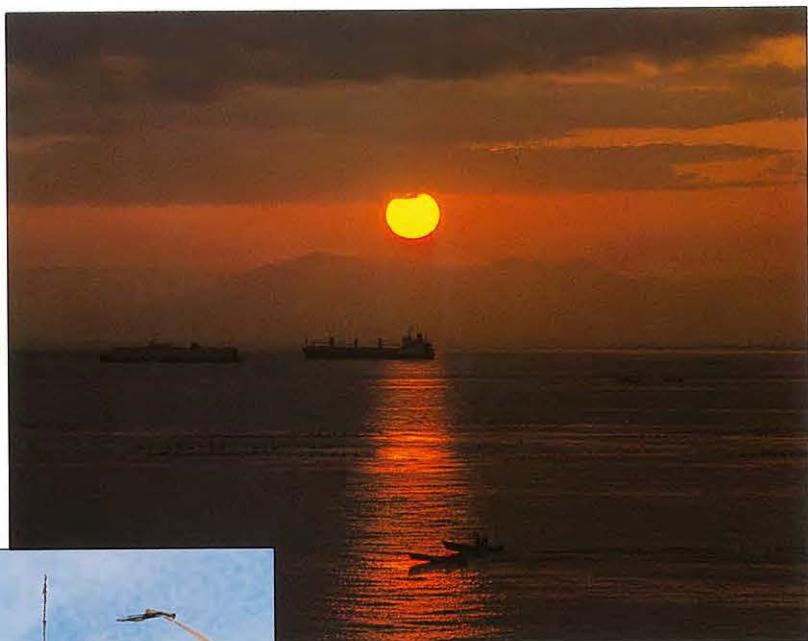
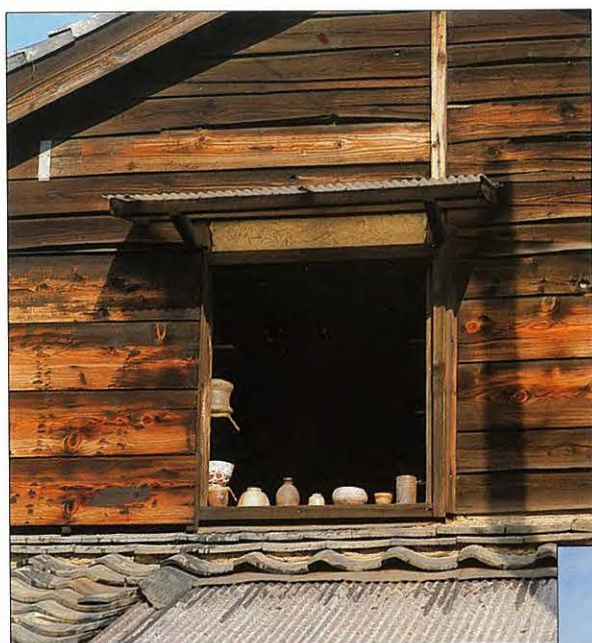
常滑散步





〔常滑散歩〕





127



●大谷地区春まつり

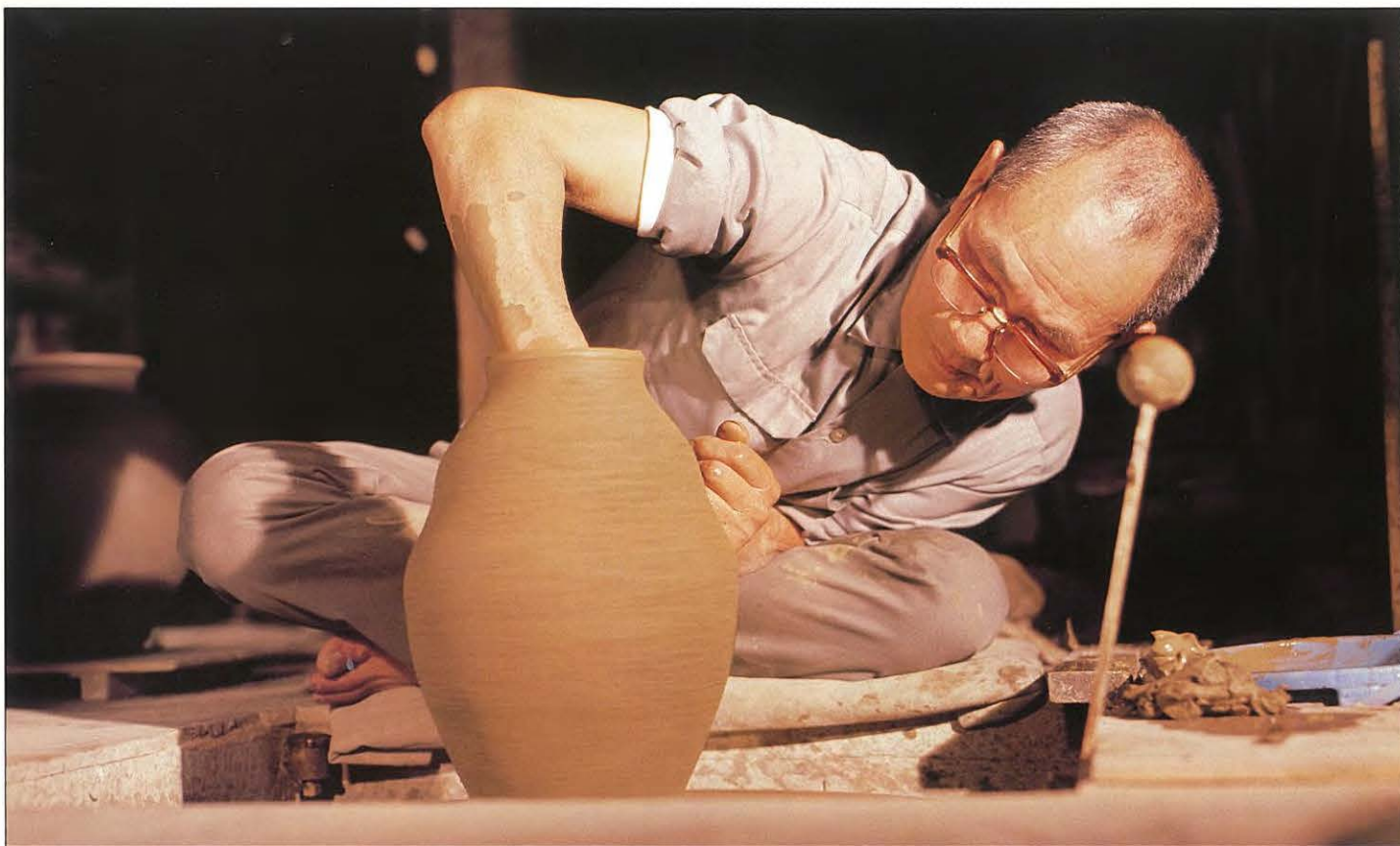


●常滑地区春まつり

●大野地区春まつり



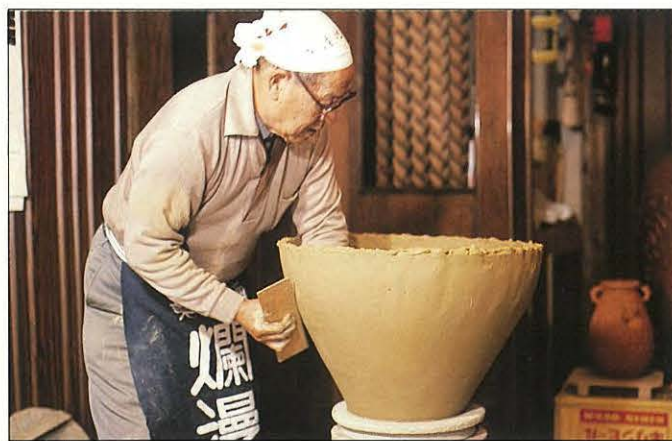
文化財



●ロクロ造り技術保持者 土井福雄氏(市指定無形文化財)



●ヨリコ造り技術保持者 沢田重治氏
(市指定無形文化財)



●ヨリコ造り技術保持者 杉江時治氏(市指定無形文化財)

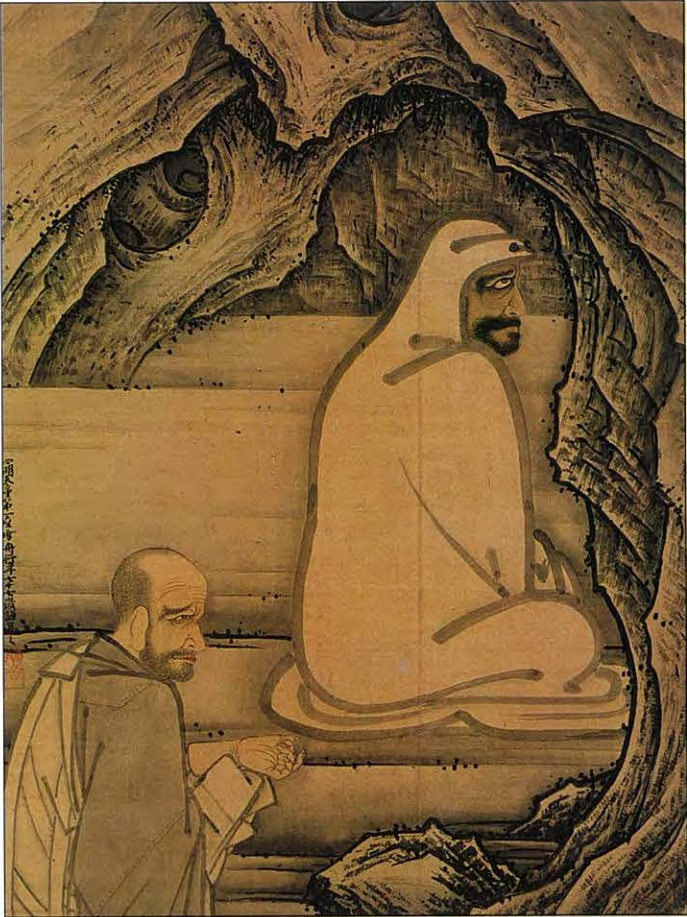
ヨリコ造り

ヨリコ造りは平安末期から始まった成形方法といわれています。ヨリコとよばれる太い粘土の“ひも”を積み上げていく手法で、陶工自身がロクロのかわりとなり、造る物のまわりをくるくる回りながらヨリコを積み上げていきます。

大きな物になると、人間の背だけ以上の物まで造ることができます。

文化財指定状況

区 分		国指定	県指定	市指定	合 計
有形文化財	建 造 物			1	1
	絵 画	1(重文)	1	4	6
	彫 刻		3	7	10
	工 芸			72	72
	古 文 書			1	1
	考古資料			3	3
無 形 文 化 財				2	2
民俗文化財	有 形	1(重民)		5	6
	無 形			9	9
記念物	史 跡		1	6	7
	天然記念物		2	2	4
計		2	7	112	121



● 雪舟作 紙本淡彩慧可断臂図(国指定)

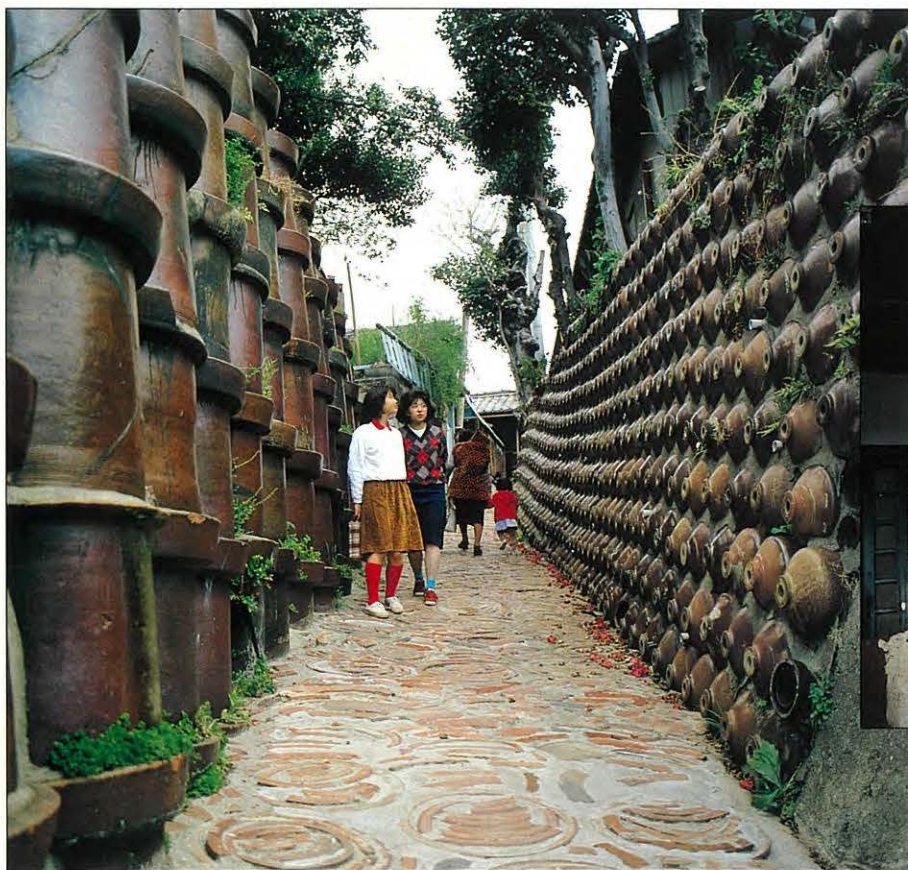


● 民俗資料館には国指定の窯業民俗資料が



● 木造仁王像(県指定)

観光とレジャー



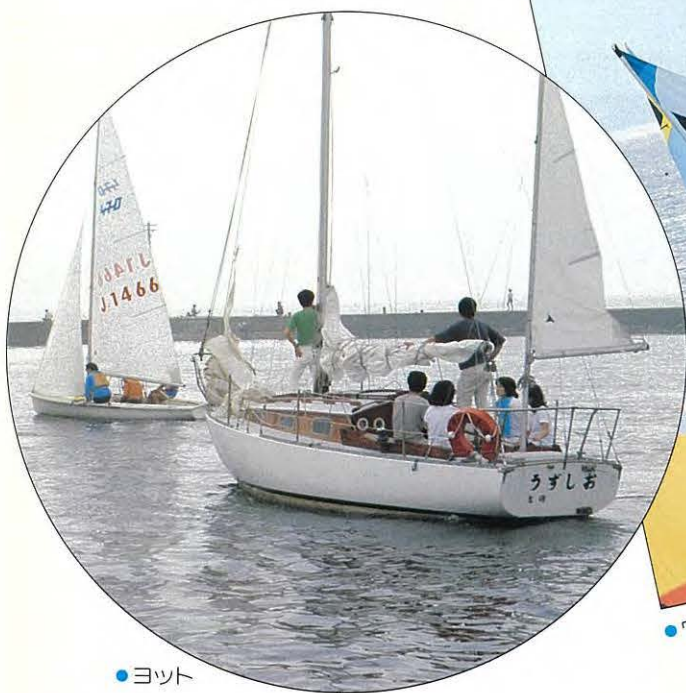
● 焼き物の坂道



● 陶芸教室



● 潮干狩り

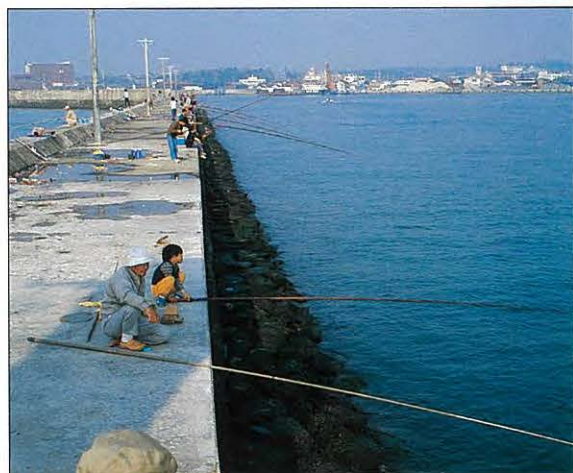


●ヨット



●ウインドサーフィン

●海釣り



●海水浴



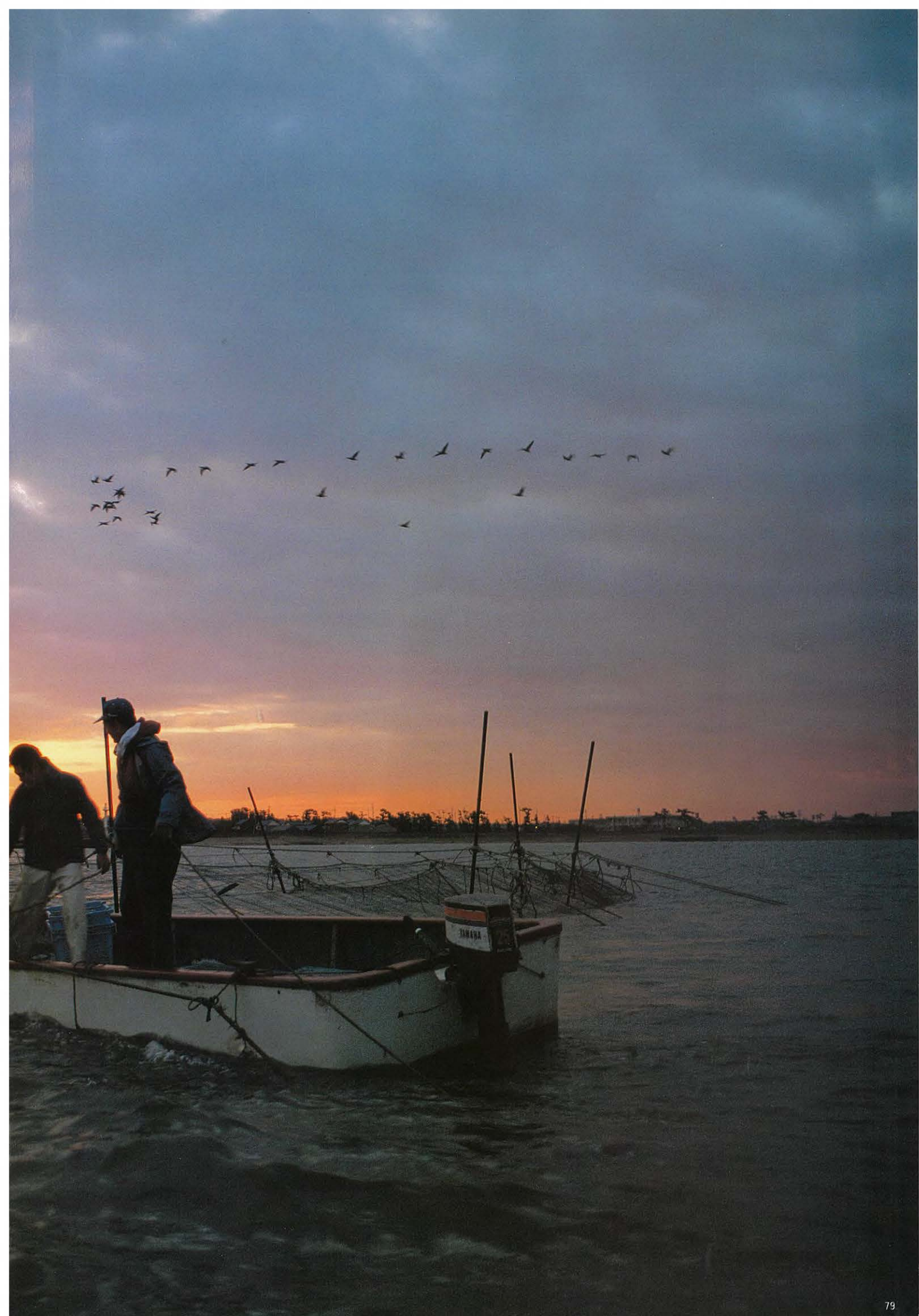
●ボートレース

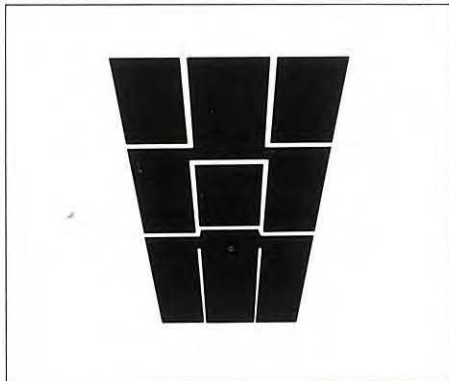
まちは日の出を待たずに動き出す。それは、遠い昔もきっと同じであつたろう。

先人たちのたゆみない努力は、豊かな自然と大いなる文化を残してくれた。

今、産業と文化の都市をめざし新たな歴史づくりが始まっている。







市章

常滑市の「常」の字を、画家の杉本健吉氏が図案化したもので、市民の団結と市勢の発展が表わされています。

(昭和30年6月制定)

市の木 クロマツ

みどりを育て、みどりを守り、みどり豊かな都市づくりのために、市制20周年を記念して昭和49年3月に市の木にクロマツが選定されました。



市の花 サザンカ

昭和56年2月、アンケート調査の結果、市の花にサザンカが選ばれました。

常滑の位置

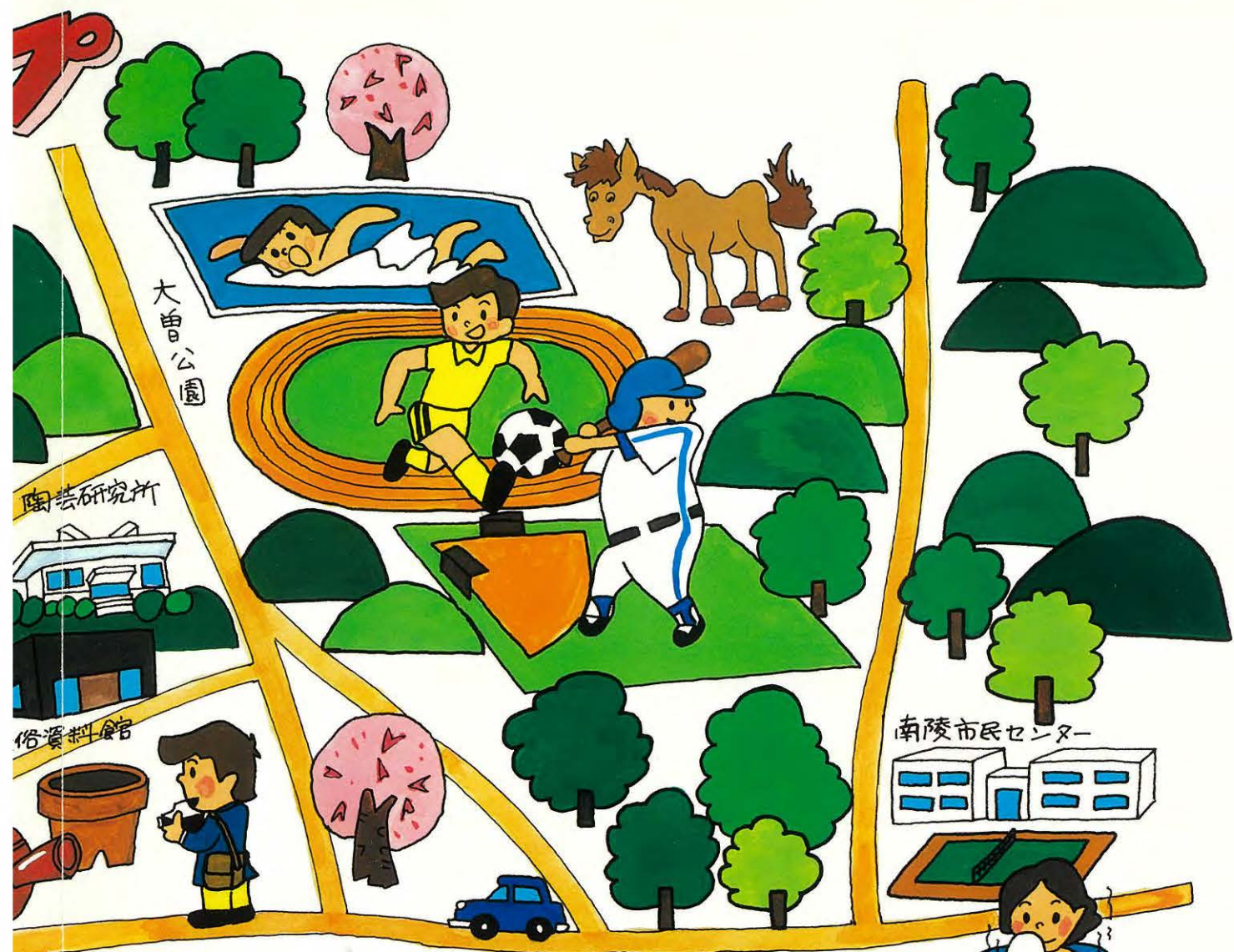
常滑市は、愛知県知多半島の西海岸中央部にあります。西は伊勢湾に面して平たん地が続ぎ、東は半島の背骨ともいえる丘陵地帯となっています。

海岸沿いに市街地があり、伊勢湾は漁業に、平たん地は商工業に、そして丘陵地は農畜産業にと恵まれた地理条件にあります。



とこなめイラストマップ





表紙説明

表紙の写真は、昭和58年11月1日に開館した市民文化会館の緞張です。

登り窯の内壁の虹彩をパツツに、海、太陽、さざんか、古常滑焼がデザイン化され、市民の真実と英知と情熱を表現しています。

昭和59年 4 月 1 日 発行

発	行	常	滑	市	役	所
住	所	〒479	愛知県常滑市新開町4丁目1番地			
企画・編集	情		報			課
印	刷	合資会社	誠	進		社

